

特定非営利活動法人 移動支援**Rera**

2023年度 事業報告書

2024年6月

移動支援Reraの目指す社会

移動手段を持たず外出できない住民が、送迎支援や助け合い、公共交通など、それぞれに適した方法で外出手段を得ることにより、心身の健康維持や生きがいづくりなどにつながり、健全で心豊かな生活を送ることができる社会

【2023年度 事業総括】

13年目となった2023年度の活動は、ドライバーの減少や利用者の減少などにより、送迎回数、送迎人数は、前年から減となったが、変わらず利用者に対し外出機会を創出し、安心・安全な送迎を提供することが出来た。

また、6月の総会を機に、代表2名体制となり、さらに運営について、『発足以来続けてきた“災害救援”ベースの活動からの改革と、地域に根差した“持続可能な活動形態”への挑戦』という活動方針の元、改めて、活動の足元を見つめ直す事から着手した。改革に向けた取組みは、組織の意思決定プロセスの再確認、ビジョンの共有に始まり、活動形態、運営手法、などの具体的検討を進め、2024年度から多方面において新たなスタートを切るメドを立てられるところまで進められた。

新しい運営体制をベースに、持続可能な活動形態を目指し、誰もが外出手段を失うことなく暮らせる地域社会の創出に向けて、今後も継続して、組織として力を合わせて行く。



【2023年度 事業報告】

I. 移動困難な住民の送迎事業

1. 移動困難な住民の送迎

【取組み内容と結果・成果】

◇移動困難な方々の通院や買い物、各種機関への外出の支援を行った。

稼働281日、送迎回数 6,146回、送迎人数 7,129人
総走行距離 99,085km（6台の送迎車両の合計）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎人数	635	664	745	661	504	613	581	585	585	520	484	552	7,129
送迎回数	546	561	636	562	452	525	503	512	508	458	422	461	6,146
スタッフ数	153	162	177	153	130	140	136	151	149	137	137	147	1,772

・送迎人数・回数は、前年度から1割ほど減少。

ここ2、3年の間、新規の利用者を積極的には増やさなかった、2024年度の改革に向けて、送迎体制は現状を維持した、などにより利用人数が減少している事が主要因と考えられる。

◇安心・安全な運転に徹し、大きな事故もなく送迎を提供する事が出来た。

◇80歳を区切りに卒業となったボランティアがいた一方、4ヶ月限定ながら新規参加のボランティアが戦力となるなど、年間を通して送迎件数は平準化出来た。

◆車両の老朽化に伴い、故障、修理は増加。稼働にも若干の影響が出ている

- ・修理・部品交換で約40万円の費用発生
- ・送迎の主力のセレナが、交換部品の入荷待ちもあり1カ月稼働出来ず軽自動車代行

送迎車両一覧

愛称	走行距離	登録年度	走行年数
セレナ	29 万km	2013年	11年
Cセレナ	27 万km	2014年	10年
Lキャラバン	20 万km	2013年	11年
キューブ	19 万km	2015年	9年
エブリー	18 万km	2013年	11年
ワゴンR*	18 万km	2009年	15年

*:リース車両

利用者さんの声

24年1月 絆力受益者アンケートより（回答者50名）

レラさんがあるおかげで嫌な通院も
気持ちが明るくなれます。
続けてほしいです



体調などを気にかけて
もらいありがとうございます

これからも少しでも長く
お願いします

乗り降りの時にサポートをしていただき、
安心しています。道中の話も楽しいです



とても助けになっています。
ぜひ続けて下さい。
お願いします。

2. 付添いつきお出かけ送迎

【取組み内容と結果・成果】

- ◇月に一度、休日を活用し、利用者の孤立予防や外出機会の増加、交流機会の創出を目的に、介助者が同行する送迎イベントを実施した。
 - ◇季節に合わせて、買い物、景勝地へのドライブ、墓参り、花見など、「一人では出かけられない」、「一緒に行く人がいない」、「目的地がない」、という利用者が、スタッフや他の利用者と交流し楽しんだ
 - ◇新規に参加したボランティアが定着し、毎月の戦力になっている
- ◆送迎スタッフの参加が減り、『イベントボランティア』に依存する運営になっているため、参加利用者の人数も限定されている。
参加者の顔ぶれも固定化されている傾向があり、たくさんの方が交流できる形態を改めて構築していく必要があると考えている。

=お出かけ送迎 開催実績=

日付	内容	行先・会場	[人]		
			利用者	スタッフ	計
2023年4月	お花見ドライブ	登米 南方・米山	12	11	23
2023年5月	お買い物	イトーヨーカドー	3	6	9
2023年6月	新緑ドライブ	雄勝ローズファクトリーガーデン	8	6	14
2023年7月	お茶っこ&ボッチャ	うめばたけ	5	6	11
2023年8月	お買い物	イトーヨーカドー	3	4	7
2023年9月	お墓参り	各所	3	4	7
2023年10月	奥松島ドライブ	宮戸島・野蒜	6	5	11
2023年11月	女川ドライブ	女川・シーパルピア	7	7	14
2023年12月	お買い物	イトーヨーカドー	5	5	10
2024年1月	お茶っこ&ボッチャ	うめばたけ	4	5	9
2024年2月	お買い物	イトーヨーカドー	4	3	7
2024年3月	お墓参り	各所	9	3	12
			69	65	134



Ⅱ. 福祉有償運送事業

今年度は実施に至らなかった。

【取組み内容と結果・状況】

福祉有償運送への切り替え準備

2022年度に引き続き、送迎を福祉有償運送へ切り替える登録を行い、制度を活用した運賃改定など、活動の持続可能性を高めるための準備と働きかけを行った。

協議の再開と停滞

停滞していた協議が2023年11月に再開されたが、宮城県の事務局から提示された提案内容が、“事業者による利用者の個人情報閲覧への同意を必須とする”等、国交省が各地域に向けて撤廃を求めている所謂「ローカルルール」で、合意出来るものではなかったため、その場での進展には至らなかった。

経緯は以下の通り。引き続き2024年度事業開始に向けた取組みを継続中。

<2023年11月>

- 宮城県事務局、運輸支局、レラの3者で打ち合わせが開催され、協議が再開。今後の検討事項について事務局サイドから指摘や提案を受けた。
- 当団体が提出していた送迎利用者名簿に、福祉有償運送の対象外の者も含まれている可能性があるとの疑念が示される。「あくまでも一人でタクシーの乗降ができない重度の心身不自由な者だけが対象であり、住民の経済的な困難状態や交通不便地域であることなどは、送迎対象者としては認められない」との指摘を受けた。
- 県が独自に作成した「移動困難確認同意書」(兼個人情報閲覧確認同意書)を以って、県が利用者を判断するという内容が提案された。
- レラから国交省や全国移動ネット関係者等へ相談を行ったところ、提案された内容は「ローカルルールであり、かつ個人情報保護など利用者への人権上の配慮を欠くもの」との見解を受けた。

<2023年12月>

- 上記経緯・見解を県事務局へフィードバックするとともに、県には、見直しをお願いした。
- レラとしても、打合せでの確認内容を踏まえ、方針の見直しを行うこととした。
 - ①「福祉有償運送」では、現在の利用者の一部しか該当者とならず、生活困窮者等、「貧困」「交通不便」等が原因の移動困難者に対応できないため、今後のレラの送迎を『福祉有償運送』『登録不要の助け合い送迎』の二本柱での活動形態をおこなう方針に改めることとする。
 - ②協議内容を踏まえ、福祉有償運送の「該当者リスト」を作り直す。
 - ③運賃体系など、提出資料全般にも改めて検討をおこなう。
- 以降、新たな送迎体制の協議・準備に時間を費やした。

Ⅲ. 情報収集・調査・情報発信事業

1. 移動サービスネットワークみやぎ等との連携推進

【取組み内容と結果・成果】

- ・事務局として、宮城県の登録団体を中心に、移動サービス関連の情報提供、啓蒙活動や運転者講習会の運営、講師など、広く移動サービスへの理解や協力を募る活動に協力した。
「福祉有償運転者講習会」
2023年度 5回開催 受講者 32名



2. 交通検索サイトの広報

【取組み内容と結果・成果】

- ・石巻交通検索サイトの重点広報実施
 - ①告知用チラシを製作し、いしのまきNPOセンターの広報誌配布ルートで、市内に広く配布した
 - ②石巻日日新聞紙面の「みんなの情報パーク」欄にサイト告知を定期的に掲載している
- ・webサイトを共同運営している「青い森ウェブ工房」協力のもとバスダイヤ改定に即した情報更新と、Googleマップの仕様変更に伴う表示機能の改訂を実施した



3. 行政、関連事業者との連携

【取組み内容と結果・成果】

- ・福祉有償運送の宮城県事務局との協議内容を、石巻市保健福祉部保健福祉総務課へ共有し、連携の継続と、今後の方向性の協議について関係性を維持した。
- ・レラ利用者への個別の支援形態について、石巻市保健福祉部保護課へ相談するなど、今後の連携のあり方について、継続して打合せを実施している。
- ・その他、行政との連携に対しては、市議会議員との関係性も活かし、県会議員とも情報共有を行うなど、今後の相談窓口を継続して確保した。
- ・地域包括支援センターとは、利用者個別のケースに対し支援実施内容を相談し、利用者の生活改善への連携を図った。

4. 他団体向け送迎技術研修

【取組み内容と結果・成果】

- ・NPO法人TEDICの新規スタッフに対し、同団体の利用者送迎を目的とした送迎技術の研修受け入れを実施した。
送迎同行も含め、安全運転、接遇、車両管理等の実習を行い、受講者に修了証を発行した。

5. 広報活動

【取組み内容と結果・成果】

・広報を通して、レラの活動について広く理解を求め、支援のお願いや担い手の募集につなげるための取組みを行った。

広報誌「かぜのたより」：計3回 各900部を配布

Facebook、ホームページ：活動内容や石巻地域話題を広く提供

YouTube：お出かけイベントや活動報告会の記録を投稿

・中間支援団体の協力やメディアを通してボランティア募集を行った。

①いしのまきNPOセンターの協力により、地元新聞、ラジオでボランティア募集を行った

②みやぎNPOプラザ主催ボランティア活動 オンライントークイベントに登壇

※問合せは数件あったが、実際に参加につながったボランティア1名は、知人紹介によるもので、広報は直接的効果にはつながっていない。

今後も「定年退職後のボランティア」、「就労支援、社会参加へのステップ」などへのアプローチを検討中



IV. 住民同士の交流・親睦の事業

・今年度活動は行わなかった。

V. その他の事業

・今年度活動は行わなかった。

◇ 組織運営に関する事

(1) 研修を活用した運営体制強化

【取組み内容と結果・成果】

・運営上の課題を、スタッフ全員で共有、検討する場として、月に一度を目安に研修会を開催した。

ex.)運営改革に対する意見交換、送迎時の無線連絡からLINE連絡への変更課題抽出

・研修の内容そのもの、スタッフの出席率が低い、など研修の在り方を含め見直しが必要。

(2) ファンドレイジング

【取組み内容と結果・成果】

① 令和5年度 社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」に採択され、チラシ作り、寄付のお願い活動、御礼状の発信などを全員で行った。

② 新規助成金への挑戦

助成プログラム	助成目的	結果
Panasonicサポートファンド for SDGs	専門家による組織診断をもとに基盤強化を進め、移動支援を通じた貧困課題の解決に取り組む	採択
愛知揆一福祉振興会	事業転換期における事業継続のための人件費	採択
WAM通常助成	地域協働による持続可能な移動支援・暮らし支援	不採択

(3) 持続可能な運営形態へ向けての取り組みと検討

【内容】

- ・組織の意思決定プロセスの確立
送迎形態、利用対象者、組織運営の改革ポイント、改革プロセスを、代表会議(週1-2回実施)で具現化し、理事会(月1回実施)で役員・アドバイザーと協議を行う、という新しい運営推進プロセスを確立した。
代表会議:代表2名体制になった以降、2023年10月から本格運用。
理事会 :従来の報告・確認の場から、協議の場へ
- ・送迎の仕組み最適化のための見直しと検討、次年度以降に向けた事業や運営の計画策定
《検討中の主な改革ポイント》
災害救援の時期に作られ、全体的な改変を行わずに続けられてきた各種仕組み・ルールを一から見直しする。
 - ①送迎形態
 - ・ボランティアが送迎に多様な関わり方が出来るよう、活動形態等のハードルを下げる
ex.)午前7時一斉ミーティング→廃止し、送迎予定に即して出勤など。
 - ②利用対象者、利用ルール
 - ・個別の『ヒアリングシート』を作成し、利用者個々の事情を確認し、それぞれに最適な移動手段につなげる。
 - ・予約受付時期、利用回数制約などのさまざまな「利用ルール」を見直す
 - ③組織運営
 - ・組織診断プログラム助成を活用し、課題の洗い出し、分析を行い、基盤強化策立案へつなげる
 - ・正会員の増員等、活動の関係者を増やし「開かれた組織」を目指す
 - ④新規事業
 - ・福祉有償運送、他、持続可能性を高めるための新規事業を検討する



(4) 運営に関する報告

【会員数】

- ・正会員 24名 (前年から10名増)
- ・賛助会員 ※継続確認が出来ていなかったため、次年度改めて継続のお願いを申し入れる (対象者:64名)

【寄付】

- ・2023年度 寄付件数 143件
- ・2023年度受取寄附金 2,617,407円
(車両募金箱 60,318円含む、チズホワイト財団様2024年度充当分を除く)
チズホワイト財団様、大阪阿倍野ライオンズクラブ様、千葉ネオライオンズクラブ様 他、法人、医院など11団体
個人 57名
- ・寄付型助成 みやぎチャレンジプロジェクト

2023年度寄付 156件 1,940,753円 (2024年度事業の助成として交付)